

summer, but in very rare cases the larvae do not pupate in the same year, but overwinter in the gall, remain within the galls throughout the next spring, summer and autumn and emerge in the next winter.

9. From the galls "Nara-me-ringo-fushi" the author found an inquiline *Curculio koreanus* Hiller and some parasitic insects.

### 図 版 説 明

#### A. 寄主植物3種

1. コナラ (*Quercus serrata* Thunberg)
2. ミヅナラ (*Q. crispula* Blume)
3. カシワ (*Q. dentata* Thunberg)

#### B. 両性代のナラ・メ・リンゴ・フシの発達

#### C. ナラ・メ・リンゴ・フシの全形 (コナラの頂芽に生じたもの)

#### D. // (カシワの頂芽に生じたもの)

#### E., F. ナラ・メ・リンゴ・フシの断面

#### G. 単性代の gall, ナラ・ネ・タマ・フシの全形

#### H., I. ナラ・ネ・タマ・フシの断面

### 北海道から未記録のコマユバチ2種

渡 辺 千 尙

#### 1. *Aphrastobracon tibialis* (Ashmead, 1906)

= *Melanobracon tibialis* Ashmead, 1906.

= *Atanycolus tibialis* Fahringer, 1928.

= *Curriea tibialis* Watanabe, 1937.

= *Aphrastobracon tibialis* Watanabe, 1950.

調査標本: 1 ♀, 定山溪, 18, IX, 1954, 久万田敏夫採集.

本種の産地として従来本州の岐阜, 静岡, 京都, 貴船, 白馬岳などが記録されているが, ♂は未だ記録されたことがない. 北海道の標本は翅が著しく曇っている.

#### 2. *Brulléia euphemia* Turner, 1919

調査標本: 1 ♀, 定山溪, 17, IX, 1954, 久万田敏夫採集.

本種は 1919 年 R. E. Turner によつてインドシナのトンキンを type-locality として初めて記載された. 次いで筆者が安松京三博士の好意で, 梅野明氏が屋久島にて採集した 1 ♀ (28, VII, 1931) を調べる機会を得て, 1937 年に本邦のコマユバチ相の一員に加えた. その後本種が採集された記録はなく, 又♂は未記載である. 北海道の標本は定山溪にて路傍につまれた薪に飛来したのを採集したもので, 原記載の標本より遙に形が小さく, 屋久島の標本によく似ている. 本種の寄主は未だ判明していないが, 恐らく或る種のカミキリの幼虫ではないかと思われる.

終りにこれらの珍しいコマユバチを採集した北大昆虫学教室の久万田敏夫氏に厚く御礼申し上げる.